どんぐり保育園

# 園だより

2025，１月号

Eﾒｰﾙ donguri_mori@cup.ocn.ne.jp
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ http://minnanomori.ne.jp

## 本年もよろしくお願い致します

### 子どもの「声」に耳を傾ける

昨年、「保育の中の子どもの声」加藤繁美著の本に出会い、加藤さんの講演を聞く機会があり、改めて子どもの「声」を聴くことについて考えるきっかけになりました。

子どもの「声」にはその子の思い、願い、色々なメッセージが含まれています。私たちはその声をどう捉え、受け止めていくかを考えながら、子どもたちと関わっています。また、保育園の中で、子どもたち一人ひとりの「声」を聴き、その声を「集団の声」につなげていきます。

また、子どもの声はお話ができるようになってからではありません。生まれた瞬間から子どもたちは自分の声（意思）をもっています。それは泣いたり、笑ったりする表情でもあります。大人はその言葉にならない思いを表情から感じ取ったり、関わったりしながら、この子の思いを探っていきます。どんなに小さな子であっても、自分の声を聴きとられる経験によって、安心できる居場所が広がっていくのではないかと思います。りす組でこんなエピソードがありました。

（Ｎくんに寄り添うＳくん）

いつもの朝はＮくんが登園すると、Ｓくんに車のおもちゃを渡して一緒に遊ぶことで１日がスタートしているようです。しかし、その日はお母さんとのお別れで泣けてしまったＮくん。担任の膝から離れることができません。そこへＳくんが登園してきました。Ｓくんはいつも通り車をもって遊び始めましたが、いつもと違うＮくんに気がつき様子を見に来ました。そこで両手に持っていた車を一つＮくんに差し出しました。Ｎくんは受け取りましたが、まだ膝から降りることができません。しばらくして、またＳくんが様子を見に来て、もう一つの車をＮくんに差し出しました。すると、Ｎくんは笑顔になって担任の膝から降りてＳくんと遊び始めたそうです。

まだ言葉にならない年齢ですが、相手の表情や雰囲気を感じ取り、ＳくんがＮくんの思いに寄り添ってくれたことでＮくんの安心が広がっていった様子がよく伝わってくるエピソードでした。そこに、保育士は「貸してくれるの？」「遊ぼうって来てくれたの？」と声を添えながら、関係をつないでいました。１歳児の子ども同士のやりとりですが、こんなふうに私たちも、子どもの「声」に耳を傾け、自分の声を聴きとられる心地よさを子どもたちに感じてもらいたいと思いました。そして、その子の声の奥にある思いに気づけるような大人でありたいと思います。

### 口頭詩をみんなで集めましょう

口頭詩は、子どもらしい、情感にあふれた、詩のような感じのする言葉を、保護者や保育士が書き留めたものです。子どもとの生活の中でのつぶやきから、その子の年齢に応じた思いを見つけることができます。ちょっと腰をかがめて、子どものお話に耳を傾けてみませんか。年末に全家庭に口頭詩集めの用紙を配布させていただきました。書いたら、玄関に提出場所がありますので、どんどん入れて下さいね。新しい用紙も用意してあります。みなさんで集めた口頭詩を年度末には口頭詩集として配布したいと思っています。